けんちく茨城

ARCHITECTURE IBARAKI 2026.11 VOL.120



一般社団法人
茨城県建築士会
https://i-shikai.com

携帯サイト
Instagram

けんちく茨城

2026.11.5　第120号

page　目次

01　建築士会　顧問に聞く
03　新委員長挨拶
05　令和８年度～令和９年度　各委員会名簿
06　建築作品紹介　桜川消防署庁舎
08　建築士会へようこそ!!
10　建築防災特集　被災地へ、畳の安心を届ける
「５日で5000枚の約束。」
全国の畳店がつなぐ災害支援

支部活動報告
12　県央支部　第119回建築セミナー
「水戸芸術館と水戸市民会館の狭間で」
13　坂東支部　「坂東市子どもフェスティバルに参加しました」
14　筑波支部　「「まちづくり鹿嶋」から学ぶ、
にぎわいの再生と持続可能なまちづくり」

委員会活動報告
16　総務・企画委員会　「納涼会」
18　会員委員会　「第34回 茨城県建築士会チャリティー
ゴルフコンペを開催」
「第16回 ボウリング大会」
20　情報・広報委員会　「令和8年度　茨城県木造住宅耐震診断士養成講習会報告」
21　青年委員会　「「令和8年度　関東甲信越建築士会ブロック会
青年建築士協議会 ぐんま大会」に参加して」
22　女性委員会　令和8年度 第35回全国女性建築士連絡協議会(東京)
「未来へつなぐ『まち・ひと・建築』
～対話から生まれるかたち～」に参加して」
24　わくわくセミナー
「木のぬくもりあふれる子育て空間を訪ねて」
25　ラブアークセミナー
「テツ・アートプラザ施設見学会」
「チョークアート　ワークショップ」

題字　大井川 和彦　茨城県知事
表紙　桜川消防署庁舎
設計・監理　株式会社andHAND建築設計事務所

携帯サイト

発行　令和８年11月５日
次回　令和９年３月５日予定
部数　1,750部
発行　一般社団法人 茨城県建築士会 会長　柴　和伸
〒310-0852　水戸市笠原町978-30　建築会館２F
TEL.029-305-0329　FAX.029-305-0330
E-mail　ibashikai0329@nifty.com

Instagram

編集　情報・広報委員会
相澤　晴夫　梅原　郁夫　成田　孝成　軽部　守彦
大山　早嗣　武居　公江　浅野祐一郎　石黒　幸喜
山田　一博　谷島　正憲　茂垣　直樹　村上　昌史
永瀬　栄亮　谷田川治彦
デザイン・印刷　株式会社 高野高速印刷

建築士会顧問に聞く!?

茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員　**白田　信夫　氏**

「人の笑顔をつくる業界に」
ー地域の住まい・職人・暮らしを次の世代へー



茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員　白田信夫氏に伺いました。

茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員の白田信夫氏に、県産木材の活用、地域の担い手、既存住宅の活用、高齢者の住環境、そして今後の建築士会への期待について伺いました。

ー県産木材の利用や住宅のリフォームについて、今どのようなことが重要だと考えていますか。

高齢化や核家族化が進む中、住まいは建てた時だけでなく、その先の暮らしまで考えることが大切です。若い時に建てた家でも、年齢を重ねればバリアフリー化が必要になり、子どもが独立すれば夫婦二人、場合によっては一人で暮らす家になります。木造住宅は家族構成や暮らし方の変化に合わせて手を入れやすい。長く使える骨格をつくり、耐震化やバリアフリー化を含め、将来リフォームしやすい住宅を最初から考えてほしいと思います。

ー県産木材利用の補助制度については、認知度が課題だとお話しされています。

茨城県には「木づかいチャレンジ」をはじめ、県産木材の利用を後押しする制度があり、住宅についても補助制度があります。しかし、制度があっても県民に十分知られていなければ利用につながりません。若い世代にはSNSも活用しながら、県産木材でどのような住まいができるのか、どんな支援が受けられるのかを具体的な事例と一緒に伝えることが必要です。建築士会、木材関係団体、地域の工務店や職人が連携し、展示の場などで実際の住まいと制度を一緒に見せることも有効だと思います。

ー地域の建築産業について、特に心配されていることはありますか。

地域では大工だけでなく、瓦屋、左官、建具屋など、昔から仕事をしてきた職人が少なくなっています。こうした人たちがいなくなれば、家を建てることも直すこともできませんし、災害の時にも困ります。地域の住まいを支えてきた職人を守り、今どんな人がどんな仕事をしているのかを紹介することも建築士会の役割だと思います。若い世代に仕事をつないでいくには、仕事として成り立つことと、自分の仕事に誇りを持てることの両方が大切です。

ー空き家や地域の魅力を、これからどのように生かしていくべきでしょうか。

空き家や古い建物は、リノベーションして新しい使い方につなげることができます。ただ、一つの建物だけでは地域は元気になりません。道路などの社会資本を整え、食や店、まちなみと組み合わせて地域全体の魅力をつくる必要があります。桜川であれば、地域を象徴する桜も大切な資源です。人が訪れやすい環境を整え、桜のような地域の魅力と古い建物の活用をつなげることで、新しい人の流れや仕事を生み出せると思います。

ー最後に、建築士会の会員に向けてメッセージをお願いします。

一番基本にあるのは、人のために仕事をすることです。人の笑顔を見るために仕事をし、そのために技術を磨く。それが自分たちの誇りになります。高齢化、リフォーム、県産材、地域の職人、空き家など、暮らしに直結する課題に建築士会の力を発揮してほしい。制度を県民に分かりやすく伝え、実際の利用につなげることも大切です。建築は建物をつくるだけではなく、地域と人の生活を支え、人の笑顔をつくる仕事です。これからも、そういう業界であってほしいと思います。

（聞き手＝大山 早嗣）

はくた・のぶお

おもな経歴：
県議会活動／監査委員（2回）・第104代県議会議長歴任
現在、防災環境災害委員会、茨城県環境審議会・茨城県スポーツ推進審議会の各委員、いばらき自民党幹事長、防災環境産業部会委員

建築士会
顧問に聞く!?

茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員　伊沢　勝徳　氏

「建築士の知識と経験を、地域と次世代のために」



茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員　伊沢勝徳氏に伺いました。

茨城県建築士会顧問・茨城県議会議員の伊沢勝徳氏に、これまでの「災害に強い県土づくり」や「住まいのかかりつけ医」という提言を振り返りながら、地域防災、建築の担い手、歴史的建築物の継承、そして今後の建築士会への期待について伺いました。

―県議会議員として、現在どのようなことを大切に活動されていますか。

初当選時から「子供たちのための将来のまちづくり」を掲げ、身近な政治、身近な議員であることを大切にしています。今だけが良ければよいのではなく、将来の主役である子供たちが「住んで良かった、生まれて良かった」と思える持続可能な茨城をつくることが基本です。福祉、交流拠点づくり、産業の活性化、安心・安全、女性が働きやすい環境、元気な土浦、そして人づくりという目標を持って取り組んでいます。建築士の皆さんにも、地域のにぎわいや安全、まちづくりという面で大きな役割があると思っています。ご助言いただければ幸いです。

―近年、風水害が激甚化しています。建築士に期待する役割は何でしょうか。

線状降水帯や台風など、いつ、どこで被災するか分からない時代です。被災する前の備えも、被災後にどう復旧するかも重要です。浸水被害を受けた住宅の復旧方法や公的支援などをまとめた建築士会の資料は、とても心強いものだと感じました。こうした情報をもっと広く県民に伝えてほしいですね。前回「住まいのかかりつけ医」と申し上げましたが、災害時だけでなく、土地を選ぶ時、住宅を直す時、高齢になって住まい方を変える時など、身近に建築士へ相談できる仕組みがあればありがたいです。

―建築やものづくりの担い手不足について、どのようにお考えですか。

地域の大工さんや板金職人などが減り、技術を次の世代へ継承することが難しくなっています。私が子供の頃は、上棟式や大工さんの仕事を身近に見る機会がありました。今はそうした経験が少なくなっています。だからこそ、小学生の頃から建築やものづくりに触れ、作る楽しさを知る機会をつくることが大切です。建築士会が学校へ出向いて建築教室を開いたり、模型を使って耐震の仕組みを体験してもらったりするのもよいと思います。建築士の仕事は、人の希望を形にし、完成した建物が地域に残る、夢と希望のある仕事です。その魅力をもっと若い世代に伝えてほしいと思います。

―歴史的な建築物やまちなみの保存についてはいかがでしょうか。

一度失ってしまったまちなみや建物は、簡単には戻せません。古いから壊すのではなく、地域で愛されてきた建物に価値を見いだし、活用しながら次の時代へ継承することが必要です。土浦にも歴史的な建物やまちなみがあります。建築士の皆さんが持つ知識、技術、経験を生かし、「これは残すべき建物だ」「こう活用できる」と専門的な立場から助言していただくことが、地域の財産を守ることにつながり、それが観光振興にもなると思います。

―今後、建築士会と会員に期待することをお願いします。

建築士会には、現場で感じている課題や制度上の問題を、ぜひ具体的な提案として届けてほしいと思います。例えば、耐震診断をした後に実際の耐震改修へつなげるには何が必要かなど、専門家だから分かる課題があります。そうした声をいただき、行政につなぐことが議員の仕事であり、顧問の役割でもあります。私たちをもっと積極的に活用していただきたいですね。若い会員の皆さんには、最初からメリット、デメリットだけを考えるのではなく、まず交流し、一緒に活動してほしい。そこから得られる人とのつながりや経験が、建築士会の力にも、自分自身の力にもなると思います。

（聞き手＝大山 早嗣）

いざわ・かつのり
おもな経歴：平成14年、茨城県議会議員に初当選し、現在6期目/第114代県議会議長歴任
現在、土木部企業立地推進委員会委員、予算特別委員会委員、いばらき自民党副会長、幹事長代行、選挙対策委員会委員、文教警察部会委員

新委員長挨拶

（今年度、新たに就任された方にお聞きしました）

総務・企画委員会委員長
横須賀　孝



この度、総務・企画委員会の委員長を拝命いたしました県央支部の横須賀です。

14年前に建築士会に入会してからは、青年委員会の委員長等を経験させて頂いた後、昨年度まで総務・企画委員会の副委員長を務めさせていただきました。

現在は会員減少と高齢化をどうするかが、会としての大きな課題であると思いますが、各委員会とも連携しながら、持続可能な建築士会の在り方を考えていきたいと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

会員委員会　委員長
加藤　宜之



会員委員会では、チャリティゴルフ大会、ボウリング大会、日帰り見学会、会員美術展の４事業を通じ、会員相互の親睦と交流、情報交換を図っています。会員数が減少するなか、他委員会とも連携し、皆さまと知恵を出し合いながら、会員増強につながる魅力ある活動に取り組んでまいります。

まちづくり委員会委員長
清水　雅史



まちづくり委員長となりました清水雅史と申します。

以前より歴史的建造物等に興味がありまして、過去６回刊行された「むかしの家シリーズ」で地元日立や近隣が特集され、まち歩きが開催されたのを機にまちづくり委員会に参加するようになりました。

ひと言に“まちづくり”と言っても広範囲に渡り難しいテーマではありますが、委員会の皆様方と手を合わせ、できるだけ楽しい内容を企画していければと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

青年委員会委員長
谷　　亮介



青年委員会に所属して、今年で５年目になります。福井県出身ですが、ご縁があってつくばで独立しました。

昨年までは小学生を対象にワークショップを開催してきましたが、今年からは大学生・専門学校生・工業高校生を対象とした活動に取り組んでいきます。学生の皆さんと一緒に活動することで、建築士会を広く知っていただき、将来の会員拡大につなげていきたいと考えています。

また、県内の若い建築士の皆さんのうち、まだ一緒に活動する機会のない方々にも気軽に参加していただけるよう、環境づくりにも力を入れていきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

女性委員会委員長
轡田　久恵



女性委員会では女性ならではの目線で様々なセミナー等を企画開催しています。先ずは初めての方も、久しぶりの方も、女性会員の皆さんが参加しやすい、「気軽さ」というものを大切に、参加してよかったと思っていただける魅力ある事業を展開していきたいと思います。やがてはその楽しさ、充実感が伝播し、新たなる仲間が増えることに期待しつつ、委員の皆さんとともに楽しく頑張ってまいります。

委員会活動

令和８年度 ～ 令和９年度

各委員会名簿

総務・企画委員会

役職	氏名	支部
副会長	益子　一彦	県央
常務理事	小川　憲一	県央
理事	飯島　洋省	桜川
理事	山田　博則	ひたちなか
委員長	**横須賀　孝**	**県央**
副委員長	**市毛あすか**	**県央**
委員	石黒　洋子	県央
委員	潮田　　浩	筑波
委員	藤田　康広	県央
委員	早川　敏史	県央
委員	青木　昌弘	県央
委員	白田洋一郎	県央
委員	根本駿太郎	県央
委員	本圖　英幸	県央
委員	小池　大允	県央

研修委員会

役職	氏名	支部
副会長	相澤　晴夫	筑波
常務理事	久保田吉文	石岡
理事	塚本　美明	土浦
理事	渡辺　　聡	久慈
委員長	**長谷川隆浩**	**筑波**
副委員長	**井坂　光宏**	**県央**
委員	長谷川正幸	古河さしま
委員	沼田　弘次	県央
委員	小貫　廣利	結城
委員	石井　浩光	県央
委員	鈴木　　弘	県央
委員	石井　邦明	県央
委員	斉藤　保弘	筑波
委員	渡辺　真美	県央
委員	根本　周作	県央
委員	百目鬼正崇	筑西
委員	住谷　将旨	県央

会員委員会

役職	氏名	支部
副会長	相澤　晴夫	筑波
常務理事	中山　和朗	筑西
理事	内芝　良吉	鹿島
理事	大島　則之	結城
委員長	**加藤　宜之**	**県央**
副委員長	**青木　孝二**	**筑波**
委員	清水　洋一	ひたちなか
委員	和田　淳一	県央
委員	柳下　文江	県央
委員	小川　雅良	県央
委員	吉田　　進	県央
委員	小暮　真一	石岡
委員	青山　裕之	石岡
委員	浅子　明美	県央
委員	根本　昌義	県央
委員	関　　康彦	県央

情報・広報委員会

役職	氏名	支部
副会長	相澤　晴夫	筑波
常務理事	梅原　郁夫	日立
理事	成田　孝成	竜ヶ崎
理事	軽部　守彦	下妻
委員長	**大山　早嗣**	**県央**
副委員長	**武居　公江**	**石岡**
委員	浅野祐一郎	県央
委員	石黒　幸喜	日立
委員	山田　一博	県央
委員	谷島　正憲	筑西
委員	茂垣　直樹	筑波
委員	村上　昌史	筑波
委員	永瀬　栄亮	県央
委員	谷田川治彦	行方

まちづくり委員会

役職	氏名	支部
副会長	益子　一彦	県央
常務理事	鈴木　啓之	土浦
理事	栗原　力男	常総
理事	広瀬　祐一	北相馬
委員長	**清水　雅史**	**日立**
副委員長	**松田　祐光**	**筑波**
副委員長	**篠根　玲子**	**県央**
委員	高橋　文男	鹿島
委員	片岡　俊之	ひたちなか
委員	平沼　清美	県央
委員	浜中　本子	ひたちなか
委員	齋藤　重雄	日立
委員	井坂　公一	土浦
委員	鈴木　邦夫	筑西

青年委員会

役職	氏名	支部
副会長	益子　一彦	県央
委員長	**谷　　亮介**	**筑波**
副委員長	**中島　剛文**	**土浦**
副委員長	**清水　智之**	**県央**
副委員長	**藤田　康広**	**県央**
委員	櫻井　　充	県央
委員	小室　直樹	県央
委員	池田　広樹	行方
委員	君島　拓弥	土浦
委員	林　　克臣	土浦
委員	小林　亮介	県央
委員	小菅　真幸	筑波

女性委員会

役職	氏名	支部
副会長	益子　一彦	県央
委員長	**轡田　久恵**	**県央**
副委員長	**近藤あすか**	**日立**
副委員長	**沖山　素子**	**筑波**
委員	大谷美由紀	行方
委員	飛田　直身	県央
委員	小貫　弘巳	県央
委員	和田　知子	土浦
委員	平山香菜子	土浦
委員	梶　ひろみ	久慈
委員	菊池みさ子	常総

CPD委員会

役職	氏名	支部
常務理事	小川　憲一	県央
委員長	**横須賀　孝**	**県央**
副委員長	**大山　早嗣**	**県央**
委員	加藤　宜之	県央
委員	長谷川隆浩	筑波
委員	清水　雅史	日立
委員	谷　　亮介	筑波
委員	轡田　久恵	県央

賛助会　幹事会社

役職	会社名
代表幹事	**ミナト防災通信工業㈱**
副代表幹事	**㈱梅山工業所**
副代表幹事	**植田防水工業㈱**
幹事	㈱フジクリーン茨城
幹事	和知商事㈱
幹事	㈱エスアールエスディービー社
幹事	㈱角藤　水戸支店
幹事	㈱建友
幹事	三英物産㈱
幹事	高橋商事㈱
幹事	ＴＯＴＯ㈱水戸営業所
幹事	㈱奈良屋
幹事	㈱根子左
幹事	㈱日立ビルシステム



桜川消防署庁舎

建築作品紹介

設計主旨

山並みと日常を繋ぐ「透明な防災拠点」の構築

都市景観への呼応とシンボリズム

筑波の山並みが描く稜線は、地域のアイデンティティそのものです。本計画では、象徴的な「折板状の屋根」を採用し、周囲の風景と呼応する軽やかなリズムを刻みました。この屋根は消防署としての力強さと、市民の日常に寄り添う親和性を両立させるものです。従来の消防署は、機能性ゆえに閉鎖的な「要塞」となりがちでしたが、本建築では街との境界をあえて曖昧に設定しました。前面道路から訓練の様子や車両の気配が感じられる配置により、消防活動を都市の日常へと開放しています。防災を「遠い非日常」ではなく、「身近な安心感」が得られる透明性なモノとして設計を行いました。

「見る・見られる」の関係性と可視化の意義

ガラスを多用した空間構成により、隊員の規律ある活動が外部や内部の諸室間へと伝わるよう配慮しています。ここで意図したのは、単なる視覚的開放だけではありません。「見る・見られる」という双方向の視線をデザインすることで、消防署の日常を地域社会の共有財産として可視化することを意識しました。隊員には守り手としての誇りと緊張感を与えるとともに、市民にはコミュニティの拠り所としての信頼感を醸成しています。この双方の透明な関係性こそが、消防署を特権的な公共施設から、真に開かれた地域コミュニティの核への変容が可能としています。

規律と休息の調和バッファーゾーン

24時間の緊張感と迅速な出動を両立させるため、仮眠室の構成を思慮しました。個室の独立性を担保しつつ、その手前に緩やかな「バッファーゾーン」を配置しています。このエリアは、個室に入る前の精神的な切り替えを促す場であり、同時に隊員間の偶発的なコミュニケーションを誘発する場として設計しました。一刻を争う出動時においても、この共有空間を経由することで互いを察知し、一体感を持って初動へと移行できるようにしています。プライバシーの尊重と集団の結束力という相反する要素を、建築で融合させました。

PCPaC工法による機能性と合理性の追求

災害時の絶対的な強度と、将来の需要変化に応える可変性を確保するため、PCPaC工法（プレキャスト・プレストレストコンクリート造）を採用しました。病院跡地の既存杭との干渉を精緻に回避した配置計画に基づき、大スパンの無柱空間を実現しています。これにより車両の円滑な動線と、将来的な機能更新へのフレキシビリティを確保しました。また、プレキャスト部材の活用は、高品質な施工と工期短縮を両立させ、公共建築としての信頼性を担保しています。

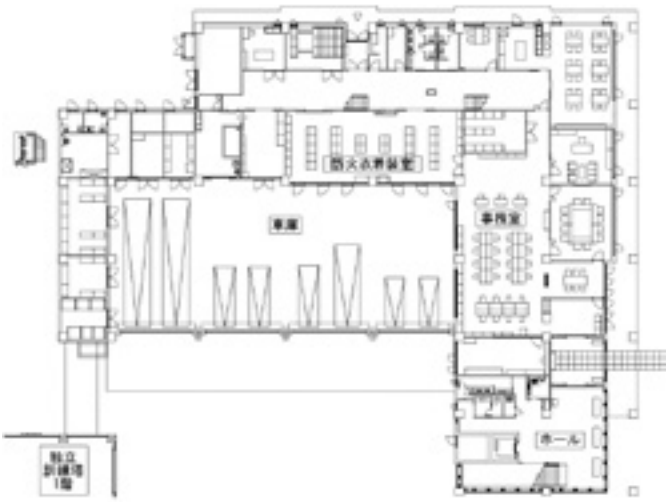




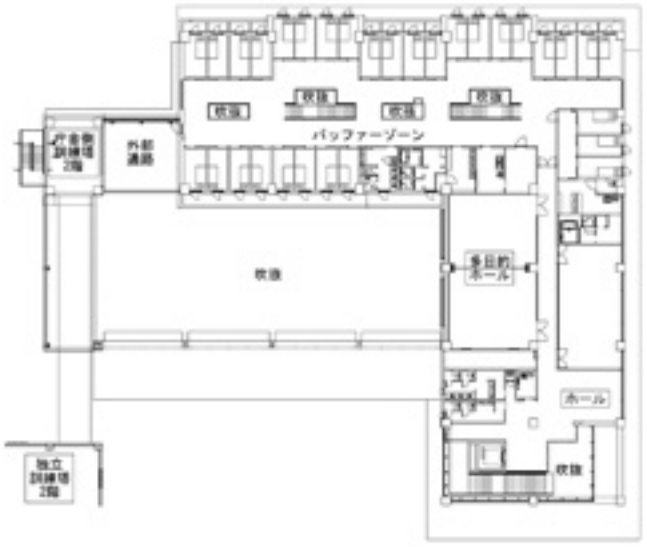
左/開かれた透明性を構築したホール
右/バッファーゾーンからの階段



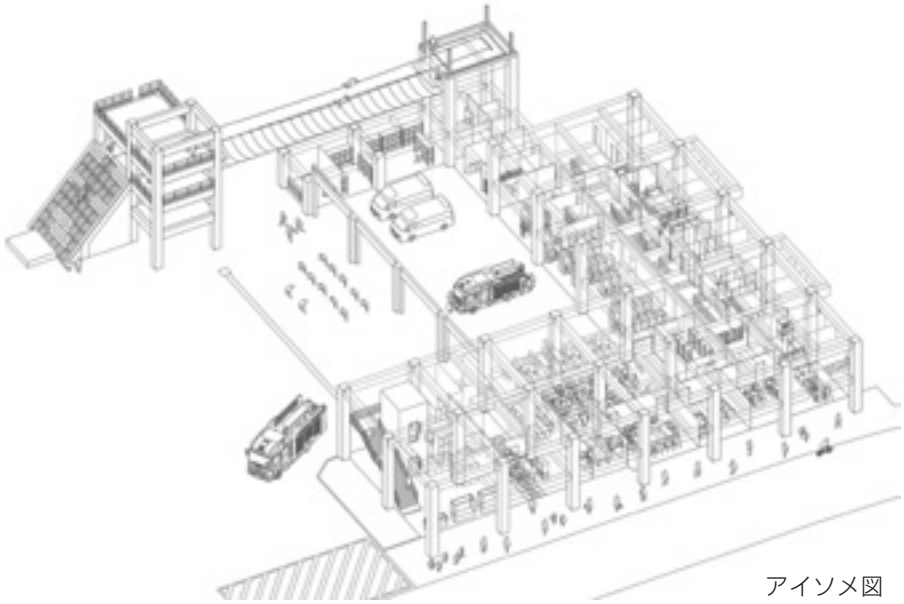
PCPaC技術による大空間を実現した多目的室



1階平面図



2階平面図



アイソメ図

公共建築としての倫理的責任と価値の継承

既存の土地資産（既存杭）を尊重しつつ最新構法で新たな命を吹き込むプロセスは、コスト最適化と環境負荷低減を同時に達成させています。建物の長寿命化を図り資産価値を維持することは、公共建築が担うべき倫理的責任に対する誠実な回答であると私たちは考えます。桜川消防署は、筑波の景観に寄り添いながら地域の安全を永続的に支えるプラットフォームとして、次世代へと受け継がれる建築となることを願います。

■建物概要／桜川消防署庁舎

●所　在　地：茨城県桜川市鍬田604番1他
●用　　途：消防署
●発　注　者：筑西広域市町村圏事務組合
●設計・監理：株式会社andHAND建築設計事務所　代表取締役　飯島洋省
●敷 地 面 積：12,732.84㎡　　●延 べ 面 積：3,329.40㎡
●構 造 工 法：【消防署庁舎：PCPaC（プレキャストプレストレスト）造・一部鉄骨造・壁式鉄筋コンクリート造・地上2階建】
【訓練棟：RC造一部S造・地上4階建】

Welcome 建築士会へようこそ!!

①氏名・支部　④入会の目的
②勤務先　⑤建築士会に期待する活動・参加したい活動
③自己紹介　⑥建築士として将来の目標



高松　来海　22歳
支部名：結城支部

①高松 来海 22 歳 結城支部
②小貫建設 株式会社
③この度入会させて頂きました、高松です。
現在は、建設会社で現場代理人として、工事現場の施工管理に携わっています。
よろしくお願いいたします。
④建築士の皆さまとの交流を通して、建築に関する知識や経験を深めていきたいと思っております。
⑤講習会、見学会など
⑥地域や社会に貢献できるよう、さまざまなことを学びながら、成長していきたいと思っております。

OOMA 株式会社 大山都市建築設計
Oyama Office for Metropolitan Architecture
https://ooma.co.jp

〒309-1106　茨城県筑西市新治1996-56
TEL. 0296-21-7005　FAX. 0296-21-7006
E-mail: info@ooma.co.jp

OOMA-MITO　水戸設計室
〒310-0041　茨城県水戸市上水戸3-5-15-102
TEL. 029-291-6340　FAX. 029-291-6341

日本建築士連合会会員の皆さまへ

日本建築士会連合会
補償制度のご案内

経営安定化や福利厚生制度など
さまざまな補償プランを
ご案内しております。



中途加入
随時受付中

会員限定

業務に関する賠償責任保険

❶ けんばい事務所用（建築士賠償責任補償制度）
❷ けんばい勤務建築士用（建築士賠償責任補償制度）
❸ NEWこうばい（工事総合補償制度）
❹ 既存住宅状況調査技術者団体賠償責任保険制度

ご自身やご家族のための保険

団体割引 20%

❺ トータルサポート
（団体総合生活補償保険）
（団体長期障害所得補償保険）

ゴルファー必須のワイドな補償

団体割引 10%

❻ 団体ゴルファー保険
（団体総合生活保険）

詳細はこちらから



公益社団法人 日本建築士会連合会 共済補償制度 WEB SITE
https://kenchikushikai.aic-agt.co.jp/
［日本建築士会連合会ホームページ］→［商品ラインナップ］→ パンフレットダウンロード

特集

被災地へ、畳の安心を届ける

「5日で5000枚の約束。」
全国の畳店がつなぐ災害支援

大規模な災害が発生したとき、私たち畳店に何ができるのか。

その思いから、全国の畳店が地域を越えて連携し、被災地の避難所へ新しい畳を届ける活動が「５日で5000枚の約束。」プロジェクトです。

災害時、体育館や公民館などの避難所では、多くの方が硬く冷たい床の上で生活を余儀なくされます。そこに畳を敷くことで、座る、足を伸ばす、横になって休むといった、ごく当たり前のことができるようになります。



防災訓練ブース写真

畳一枚ですべての不安を取り除くことはできません。しかし、少しでも身体を休め、日常に近い安心を感じていただくことはできる。避難生活の中で、ほんの少しでも心と身体を休められる場所をつくること。それが、畳屋だからこそできる支援のひとつだと考えています。

2015年９月、関東・東北豪雨によって鬼怒川の堤防が決壊し、茨城県常総市は甚大な被害を受けました。多くの方が避難生活を送る中、このプロジェクトでも全国、そして関東地区の仲間が連携し、避難所へ畳を届ける支援を行いました。

実際の被災地では、必要な枚数や搬入先、避難所ごとの状況は刻々と変わります。だからこそ、現地の情報を正確につかみ、製作、集荷、運搬までを短時間でつなげていく連携が欠かせません。

この経験を通じて強く感じたのは、「災害が起きてから準備するのでは遅い」ということです。


平成27年９月関東・東北豪雨　常総市石下総合体育館

どこで畳が必要なのか。何枚必要なのか。誰が製作し、誰が運ぶのか。こうした判断を迅速に行うためには、平時から自治体や地域の事業者、全国の畳店同士がつながり、顔の見える関係を築いておくことが重要です。



令和６年能登半島地震　石川件七尾市総合体育館

活動は関東だけにとどまりません。熊本地震や能登半島地震をはじめ、全国各地で大きな災害が発生した際には、各地域の畳店が連携しながら被災地への支援を続けてきました。

一軒の畳店だけではできないことも、全国の仲間が力を合わせれば実現できます。必要な地域の近くにいる仲間が状況を確認し、それぞれの畳店ができる範囲で製作や運搬を分担する。誰か一人に大きな負担をかけるのではなく、それぞれが持つ技術、設備、車両、地域とのつながりを持ち寄る。このネットワークこそが、プロジェクトの大きな力です。

私は現在、関東地区委員長として、関東各地の畳店の仲間や自治体との連携を進め、災害時に迅速に動ける体制づくりに携わっています。

災害支援で大切なのは、特別なことではありません。自治体との災害協定や、地域の仲間との日頃からの情報共有を積み重ね、いざという時に迷わず動ける仕組みをつくることです。誰に連絡し、どこへ運び、どう受け入れていただくのか。平時にそこまで確認しておくことが、一日でも早く被災された方のもとへ畳を届けることにつながります。

畳は、日本人の暮らしに長く寄り添ってきました。普段は住まいを支え、災害時には人が安心して座り、足を伸ばし、休む場所になる。畳の持つ温かさや安心感を、最も必要としている方へ届けることも、私たち畳店の大切な役割だと思っています。

「必要な時に、必要な場所へ、畳を届ける。」

これからも関東地区の仲間、全国の仲間、そして自治体や地域の皆様と連携しながら、畳を通じた防災・災害支援活動を続けてまいります。

「５日で5000枚の約束。」プロジェクト
関東地区委員長
株式会社 関川畳商店
代表取締役　関川 恵一
（建築士会　賛助会員）



令和８年熊本地震　熊本県宇土市避難所

県央支部

事業委員長　岡﨑　和裕



大宇根先生とクヴェレホール

第119回建築セミナー「水戸芸術館と水戸市民会館の狭間で」

盛夏の８月８日（土）、（株）大宇根建築設計事務所　大宇根弘司氏を講師に迎え、設計を取り組まれたテツ・アートプラザのクヴェレホールにおいて、「環境セミナー/第119回建築セミナー」を開催しました。日本建築学会関東支部茨城支所と建築士会県央支部事業委員会の合同開催でした。哲文化創造（公財）職員の皆様には、多大なるご協力をいただきました。

テツ・アートプラザは、明治42年に建設された旧川崎銀行の歴史的洋風建築の外観や意匠を保存しながら、クヴェレ美術館や展示空間やカフェなどを新たに配置し、地域に根ざした美術鑑賞の場を提供することで、水戸の文化的景観に新たな層を加える存在となっています。外断熱工法を数多く手掛けられ、環境に配慮した省エネルギーと快適性について、具体的に温度・湿度データーの分析を紹介いただくなど、多岐にわたる活動のお話をいただきました。セミナー終了後は、建物内外の見学会に同行して詳しく説明していただきました。

将来建築を志す学生や一般および会員の方々で総勢54名が参加し、盛大でとても有意義なセミナー・見学会となりました。



宮地先生グループの建物見学



大宇根先生とクヴェレホール

支部活動

坂東支部

支部長　石塚　政文



「坂東市子どもフェスティバルに参加しました」

令和８年６月７日（日）坂東市岩井公民館前広場にて第32回坂東市子どもフェスティバルが開催されました。

子ども育成会で市内13の小学校、ライオンズクラブ、青年会議所、ボーイ、ガールスカウト、境警察署、坂東消防署、自衛隊、建築士会他多数団体が参加しました。

坂東支部では、例年通り木工教室をメインに本棚、ティッシュBOX、椅子のキットを用意し、参加者に組立作業をしてもらいました。

昨年より新しい試みで竹灯りを作るコーナーも追加し、子ども達から保護者の方まで親子で楽しんで作業し、出来上がった作品を見て大変喜ばれていました。

その他には杉板に好きな絵を自由に描いてもらい、電動糸鋸で切り抜き、壁掛けできるように紐を付けて差し上げました。

参加された方々にブルーベリーの苗木を配布すると、皆さん大変喜んでお持ち帰りになられてました。







支部活動

筑波支部

地域デザイン委員会　沖山 素子



「まちづくり鹿嶋」済藤氏と

「「まちづくり鹿嶋」から学ぶ、にぎわいの再生と持続可能なまちづくり」

鹿嶋市にて、地域会社「まちづくり鹿嶋」の取組みについてお話を伺いました。

古くから鹿島神宮の門前町として栄えてきた鹿嶋市は、工業都市・サッカーのまちとして全国的に知られる一方、かつての門前町のにぎわいが減少し、商店街の衰退が課題となっています。

こうした状況を受け、魅力ある門前町の再生と中心市街地活性化モデルの構築を目指し、鹿島神宮を中心とした“にぎわいの再生”を担う地域会社「まちづくり鹿嶋」が結成されました。



歴史ある境内の見学後の記念撮影

今回のセミナーでは、タウンマネージャー兼取締役の済藤氏より、同社の活動と理念についてお話を伺いました。

鹿島神宮を核とした人々のつながりをまちの活力へと転換し、交流の場を生み出していくその姿勢こそが、持続可能なまちづくりの核心であると強く感じました。

また、通常は間近での見学が難しい鹿島神宮の本殿や、樹齢1300年の御神木を特別に拝見するという、非常に貴重な経験もさせていただきました。



鹿島神宮の神職の方からお話しを聴く


みと好文テラス

MITSUO YOKOSUKA
ARCHITECTURAL CO. , LTD.
㈱横須賀満夫建築設計事務所

事　務　所　／ 茨城県水戸市南町2-1-18ｱｰｷﾋﾞﾙ 〒310-0021
TEL 029(225)4353 FAX 029(225)1794
つくば営業所／ 茨城県つくば市高見原3-1-23ｱﾒﾆﾃｨｰ高見原202
〒300-1252 TEL 029(896)3978 FAX 029(896)3968
ＵＲＬ http://www.design-yokosuka.co.jp
E-mail yokosuka-mitsuo@bea.hi-ho.ne.jp


あみ子育て支援センター

andHAND®

株式会社 andHAND 建築設計事務所
代表取締役　飯島 洋省
www.andhand.co.jp
〒 305-0033　Tel·Fax029-855-3055
茨城県つくば市東新井 29 番地 13

委員会
活　動

総務・企画委員会

委員長　横須賀　孝

「大納涼会」

令和８年7月10日（金）午後5時から
ホテル・テラスザガーデン水戸

昨年に引き続き、建築士事務所協会との合同開催である大納涼会が開催された。

本年は建築士会側が幹事を務め、参加者は来賓、正会員、賛助会員、建築士事務所協会を合わせ総勢200名となり、前回より微増の参加人数（ほぼ前回同様の参加人数）となった。

幹事会である柴和伸建築士会会長の主催者挨拶で始まり、続いて来賓の田所嘉徳衆議院議員、顧問である海野透県議会議員、同じく顧問である白田信夫県議会議員、同じく顧問である伊沢勝徳県議会議員、西野一県議会議員、木本信太郎県議会議よりそれぞれ挨拶をいただいた。

また来賓には梶山弘志衆議院議員秘書の神永文男様、石津健光茨城県建設業協会会長、茨城県建築三課より建築指導課中島課長、営繕課小林課長、住宅課和田課長、また荒井宰水戸市副市長にご出席をいただいた。

その後、７月10日に国土交通大臣表彰を受賞された、相澤晴夫建築士会副会長へ柴会長・河野会長それぞれより祝意の贈呈が行われ、相澤副会長よりご挨拶をいただいた。

そして、石津健光建設業協会会長による乾杯の発声で納涼会の宴に入った。

例年同様、暑気払いという意味でご来賓も含め、各会員相互や賛助会との交流が活発に図られて大変有意義な催しとなった。会は盛況のうちに進み、中締めは建築士会賛助会代表幹事　であります若林純也様による手締めで、賑やかな雰囲気のうちに終了しました。



田所 嘉徳 氏
衆議院議員
（本会顧問）



海野 透 氏
茨城県議会議員
（事務所協会顧問）



白田 信夫 氏
水戸市長
（本会顧問）



伊沢 勝徳 氏
茨城県議会議員
（本会顧問）



西野 一 氏
茨城県議会議員
（事務所協会顧問）



柴 和伸 氏
茨城県建築士会会長



乾杯　茨城県建設業協会　石津 健光 会長

大納涼会

LARGE SUMMER PARTY

日頃のご縁に、
感謝を込めて。











語らいのひととき、
親睦を深めて。

委員会
活　動

会員委員会

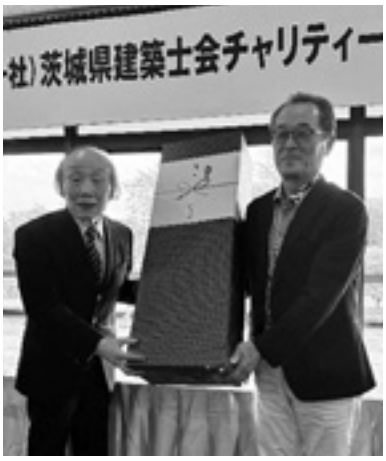
委員長　加藤　宜之



「第34回 茨城県建築士会チャリティー ゴルフコンペを開催」

令和８年６月25日（木）、富士カントリー笠間倶楽部において「第34回茨城県建築士会チャリティーゴルフコンペ」を開催いたしました。

当日はあいにくの天候となりましたが、多くの会員・賛助会員（総勢107名）の皆様にご参加いただき、大きな事故やけがもなく無事に大会を終えることができました。雨の中でのプレーとなりましたが、各組で親睦を深めながら終始和やかな雰囲気の大会となりました。



競技は新ペリア方式で行われ、各部門で熱戦が繰り広げられました。

個人の部：優勝　関根　淳氏（賛助会　ミナト防災通信工業株式会社）
女性の部：優勝　平山　真理子氏（鹿島支部）
団体の部：優勝　県庁支部
（内藤　初男氏・黒沢　利勝氏・山田　茂氏・中野　一美氏）
ベストグロス：福田　仁之氏（竜ケ崎支部）76

競技終了後には表彰式を開催し、入賞者の表彰とともに、石崎学園様にチャリティー金の贈呈を行いました。皆様からいただいた温かいご支援は、社会貢献活動に役立てさせていただきます。

本年度より会員委員会委員長を務めさせていただいておりますが、本大会を通じて改めて会員同士の交流の大切さを実感いたしました。建築士会の魅力は、世代や支部を超えたつながりにあると感じています。今後も多くの皆様に楽しんでご参加いただける事業を企画し、交流の輪をさらに広げられるよう努めてまいります。



最後になりますが、本大会の開催にあたり、ご協賛・ご協力いただきました会員・賛助会員の皆様、ゴルフ場スタッフの皆様をはじめ関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

来年もより多くの皆様にご参加いただき、親睦を深められる大会となることを願っております。

委員会
活　動

会員委員会

委員　和田　淳一

「第16回 ボウリング大会」

日　時：令和８年８月22日（土）
場　所：大学ボウル
参加者：38名

会員委員会主催の「第16回ボウリング大会」が、多くの会員の皆様をお迎えして盛大に開催されました。

多くの会員に加え、ご家族や子どもたちも多数参加し、総勢38名の賑やかな顔ぶれが大学ボウルに集まりました。大会は柴会長による見事な始球式で幕を開け、会場は賑やかな雰囲気の中でゲームがスタートしました。競技では、ストライクやスペアが出るたびに歓声が上がり、レーンを越えた交流と笑顔が広がる素晴らしい親睦の機会となりました。

ゲーム終了後の表彰式では、まず柴会長より大会の総評を交えたご挨拶をいただきました。続いて、見事な成績を収められた上位入賞者の表彰にて、中山常務よりお祝いと激励を込めたご挨拶を頂戴し、会場は大きな拍手に包まれました。

最後は加藤委員長による締めの挨拶で、次回の再会を誓い合いながら盛会のうちに閉幕いたしました。ご参加・ご協力いただいた皆様のおかげをもちまして、無事に大会を終えることができました。会員委員会一同、心より御礼申し上げます。





表彰結果

団 体 賞：優　勝　○チーム８（中山和朗、石川宏、柳下文江、和田淳一）筑西・高萩・県央支部
準優勝　○チーム２（高宮英司、皆川尚之、鈴木孝和、鈴木崚太）桜川支部

個 人 賞：優　勝　中山　和朗：スコア293（筑西支部）
準優勝　和田　淳一：スコア284（県央支部）
３　位　鈴木　崚太：スコア279（桜川支部）

女子優勝：高橋　光子：スコア240（土浦支部）



委員会
活　動

情報・広報委員会

委員　浅野　祐一郎



「令和８年度 茨城県木造住宅耐震診断士養成講習会報告」

本年度２回目の茨城県木造住宅耐震診断士養成講習会が、令和８年８月25日（火）、土浦市役所内にある県南生涯学習センター中講座室において開催されました。当日は、新規受講者　34名、更新受講者15名の合計49名が参加。開会にあたり、茨城県土木部都市局建築指導課中島課長より挨拶をいただき、続いて同課の小國技師より診断士の認定要綱及び養成状況等の説明がありました。講義は二部構成となり、第一部の「総論・一般診断法」については建築士会県央支部木耐震リーダーであるNOVA建築設計室主宰岡山伸行氏からは、従来の診断法に加え、今回2025年に改正された改訂版の主な項目の解説等もありました。第二部の「被災度区分判定の概要・例題演習・精密診断・補強方法」については茨城県建築士会理事・下妻支部長でもある軽部建築設計事務所主宰軽部守彦氏より、基本編の他、実際に行った耐震診断と補強の実例を交えた講義がありました。令和６年能登半島地震、令和８年熊本地震、近年発生した２つの大きな地震は大災害となりました。現在の科学においても地震予知はできません。いつでも、どこでも地震が来ることを想定した事前の備え、耐震対策の重要性を改めて実感する内容となりました。

有限会社
クボタ建築設計事務所
代表取締役
一級建築士　久保田　吉　文
事務所　〒315-0001　石岡市石岡3055-9
TEL　0299-23-9305　FAX 0299-23-9307
E-mail : info@kubota-sekkei.co.jp　URL http://kubota-sekkei.co.jp

委員会活動

青年委員会

委員　池田 広樹

「「令和８年度 関東甲信越建築士会ブロック会 青年建築士協議会 ぐんま大会」に参加して」



令和８年６月19日（金）・20日（土）の２日間、群馬県安中市の「舌切雀のお宿 磯部ガーデン」において、「令和８年度関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会ぐんま大会」が開催されました。今年度も例年どおり対面方式で開催され、関東甲信越各地から314名が参加しました。

今大会は、「建築の芽を育んべぇ」を大会テーマに掲げて開催されました。平成27年の群馬大会で掲げられた「建築の種をまこう」から約11年。当時まかれた「種」が各地での活動として根付き、次世代へとつながる「芽」へ成長したことを表現したテーマとなっています。

第一分科会では、各都県代表による地域活動の発表が行われ、茨城県建築士会から県央支部の藤田康広さんが「ボランティアから事業へ―建築士会活動の転換モデル」と題して活動を発表しました。本事業は、「支部の枠を超えた全県規模で活動を展開できる運営体制」「建築士の専門性を生かした教育事業」「若手が参加しやすい仕組み」を特徴としており、継続して実施されています。活動を継続的に続けられる仕組みづくりは、各都県からも大きな関心を集めていました。

第二分科会Ⅰでは、地元旅館の経営者と地元設計事務所を講師に迎え、リアルタイムでスクリーンにコメントを投影する聴衆参加型のディスカッションが行われました。

第二分科会Ⅱでは、「五感で楽しむ進化した日本茶」をテーマに、日本茶を味わいながら交流を深める和やかな時間が設けられました。

私が参加した第三分科会では、「関ブロ大会は楽しい！」という思いを参加者同士で共有することを目的としたゲーム形式のグループディスカッションが行われました。初対面の各都県の参加者同士で共通点を探し合い、その数を競い合う内容で、建築士ならではの共通点はもちろん、建築とは関係のない意外な共通点も次々と見つかりました。会場には大きな笑い声が響き、「関ブロ大会は楽しい！」という大会のコンセプトを参加者全員で実感できる時間となりました。

大懇親会では、参加者全員が同じ浴衣姿となり、一体となって大いに盛り上がりました。開会式から閉会式まで終始活気にあふれ、実行委員をはじめとする群馬県建築士会の皆様の熱意とおもてなしを随所に感じる大会でした。私自身、多くの学びと新たなつながりを得ることができ、大変有意義な２日間となりました。

次年度は、「頂（いただき）～つどい、つながり、未来を築く～」を大会テーマに山梨大会が開催されます。新たな学びや交流が生まれる大会となることを、今から大変楽しみにしています。

委員会
活　動

女性委員会

委員長　轡田 久恵

令和８年度 第35回全国女性建築士連絡協議会（東京）「未来へつなぐ『まち・ひと・建築』～対話から生まれるかたち～」に参加して」

去る７月19日（日）、20日（月・祝）と全建女東京大会に参加してきました。

茨城からは11名の参加でした。

地方大会と東京大会を交互に開催している全建女ですが、東京大会への参加は初めてで、今回は大会前に行われる委員長会議にも出席しました。

初めてのことなのでどのような会議なのか、やや緊張気味での参加でしたが、周囲の様子を見ていると、皆さんお馴染みのご様子で、全国にお友達がいるのか！と改めて建築士会という団体の大きさを感じました。会議は、この場を有意義なものにしようと趣向を凝らし、準備いただいたのが伝わってくるものでした。用意されているテーマについてのトークセッションの時間では皆さん活発に今感じていることをお話され、気が付くと私の緊張も解けていました。

大会では、京都会、長野会の活動報告、宮城会の被災地報告、そして、楽しみにしていた建築家・SUEP.の末光ご夫妻の基調講演。古谷会長がお声がけをして実現したとのことでしたが、私と同年代で活躍されている方々のお話だったので、興味深く、



参加者の皆さんと記念写真


委員長会議　トークセッションの様子

のめり込んで聴いてしまいました。ご夫婦でお仕事されているということで、やはり皆さんの興味は「どのように仕事を分担しているのか」ということでしたが、「目線が違う」といった内容のお話がありました。分けるのではなく、足し合わせているということでした。

そこで古谷会長が補足として建築史家の長谷川堯さん（俳優の長谷川博己のお父さん）の「雌の視覚」という本をご紹介くださいました。未だ入手できていませんが、読んでみたいと思っています。語彙力が乏しいため、上手く表現できませんが、会場の興味がひとつとなり、広がりをみせていく感覚を体験しました。

交流会では、「ワンバイワン」という、各ブロックの代表県が活動の発表をする場が設けられているのですが、今年は茨城が発表の当番でした。昨年の10月に行った奥久慈漆セミナーで作った漆器と箸を持ち、前委員長の大谷美由紀さんの発表をみんなで盛り上げました。

全建女へは３回目の参加でしたが、このような機会を積み重ねて仲間が出来ていくのだなと思いました。私の事務所の若い子たちにも、このような経験をこれからどんどんして、沢山の仲間をつくっていってもらいたいと思います。

そして、大会１日目の終了後には、長野の女性委員会からお誘いがあり、食事会にて交流しました。お互いの会の活動の話から、美の秘訣まで（長野の女性は肌がきれいで年齢を聞いて驚くほど若いのです！）話が弾みました。


基調講演の様子

２日目の分科会では、私はＣ分科会「次の世代にのこすために～後藤織物総合調査のこれまでとこれから～」に参加しました。桐生市の国登録有形文化財「後藤織物」を次世代に残し、継承していくための奮闘記で、群馬会の久保田さんによる物語口調の発表にこれまた引き込まれ、あっという間の２時間でした。

全建女東京大会は、こちらのレポートには書ききれないほど盛りだくさんの実り多き２日間となりました。

来年の全建女は神奈川で開催されます。未だ参加されたことのない方は、ぜひとも会場参加をご体験ください。全国の頑張っている女性建築士の皆さんから何かしらお土産に持って帰ることのできる機会になるかと思います。



交流会ワンバイワン茨城発表の様子

委員会
活　動

女性委員会（わくわくセミナー）



「木のぬくもりあふれる子育て空間を訪ねて」

■土浦支部　平山（赤木）香菜子

阿見町に誕生した２つの施設見学会を行いました。「まつうらわくわくパークあみ（子育て支援センター）」は、今年４月に運用開始。鉄筋コンクリート造の壁と、鉄骨造の柱・木造の梁や母屋を組み合わせたハイブリッド工法を採用し、木の温もりを感じる開放的な空間には大型ネット遊具が設置され、子どもたちがのびのびと遊ぶ姿が印象的でした。

また、「本郷小学校区放課後児童クラブ」は、令和７年度より運用開始。木材を生かした温かみのある内装が特徴で、曲線を取り入れた図書コーナーは落ち着いた雰囲気を演出していました。どちらも普段は利用者以外が立ち入れない施設のため、バックヤードを含めた施設運営の工夫を見学できる大変貴重な機会となりました。





委員会
活　動

女性委員会（ラブアークセミナー）

「テツ･アートプラザ施設見学会」

■県央支部　平沼　清美





女性委員会 ラブアークセミナー「クヴェレ美術館、テツ・アートプラザ施設見学会」を７月４日に開催いたしました。

「テツ・アートプラザ」の構想は、明治42年に建設された歴史的に貴重な洋風建築である旧川崎銀行を活かし、水戸に賑わいを創出したいという思いからスタートしたこと、そしてクヴェレ美術館・クヴェレホールの「クヴェレ」がドイツ語で「泉」を意味し、湧き出る泉に人々が集い、交流が生まれる憩いの場となるようにとの願いが込められていることを知りました。旧銀行棟は、正面外観はほぼそのままに、内部は国産のケヤキ材が贅沢に用いられ温かみのある空間となって、新たなシンボルとして見事に生まれ変わりました。西側には美術館、そして東側にはカフェ、中心のホールは一般開放されており、市民による様々なイベントの場所となって、この日も七夕のイベント準備が始まっており、カフェでは若い人たちが寛いでいました。ネーミングのとおり、人々が集まる憩いの場所として新旧の建物が一体化したリノベーションとして、新しい価値が吹き込まれたように感じました。

今回の見学では、施設運営者から特別に美術品の収蔵庫の中を見せていただき、工事を担当しました施工業者からは建物についての解説をいただく機会を得て、工事中の苦労話や、現代の技術や新しいアイデアなど貴重な話も伺うことができました。

私たち建築士として、歴史的建築物の維持（保存）と活用について、大変勉強になった施設見学となりました。



委員会
活　動

女性委員会（ラブアークセミナー）



「チョークアート　ワークショップ」

■県央支部　石井　裕子

７月11日　真珠記念日の日に、「チョークアート」を体験してみよう！を、開催しました。

初夏を感じる、暑い時期に、お集まり頂き、心から感謝申し上げます。

講師は、つくば在住の、アトリエ　ユキ　カラーズの桑原由紀先生。

（水戸市内の、好文テラス内の「SENBA BREWERY＆GRILL様」の壁面に、チョークアートを描いた方です。お時間が、ある方は、ぜひ見に行ってください。）

ワークショップの参加者、半分以上が、つくば市近辺からいらっしゃいました。一般の、中学生も参加して頂きました。

先生が、「トロピカルジュース」をスケッチして頂いた、赤と青組に分かれて、先生の指導により開始。

ラインの書き方、指の使い方により、作品の雰囲気が、ガラッと変わります。

オイルパステルのチョークで、いっぽん、いっぽんのラインを縁取り、赤色でも、何色も使用し、色を指を使って混ぜていきます。真剣な表情で、無言になり、黙々と作業をする事、約２時間以上。美味しそうな「トロピカルジュース」が仕上がりました。作品が、仕上がった時には、笑顔で溢れていました。もちろん、仕上がった作品は、お持ち帰り。

街中で、チョークアートを見かけた時には、今日の体験を思い出して頂けたら、幸いです！







珪藻土配合漆喰壁エコ・クィーン
特殊大面積床仕上げＫＬ工法
特殊打放し風仕上げＳＦＣ工法
外断熱構造左官仕上げ
アドグラピンネット工法
ＲＣウォール工法
リフリート工法
リボール防水

根子左ホームページ
施工内容を御覧下さい。

左官工事・リニューアル工事・リフォーム工事
リノベーション工事・塗装工事・防水工事

創業 73年　左官工事のパイオニア

株式会社 根子左

〒310-0851 茨城県水戸市千波町2830番地の5
TEL.029-241-4057(代表)　FAX.029-241-7071
URL http://www.nekosa.co.jp/

■企画・設計・監理

株式会社 戸頃建築設計事務所

代表取締役　小 川 憲 一

〒310-0043 水戸市松が丘1-2-23

TEL：029-226-4869(代)　FAX：029-226-4894

E-mail：tokoro@mbb.nifty.com

□建築設計・監理　宅地開発　建築物定期報告□

Aizawa Architectural Design Office

株式会社相澤建築設計事務所

代表取締役　相澤　晴夫

〒300-1256　茨城県つくば市森の里1169-2
TEL.029-876-0617　FAX.029-876-0679
E-mail : info@aizawa-arc.co.jp
URL : https://aizawa-arc.co.jp/



HPアドレス https://www.komatsuibr.co.jp
HP:QRコード▶

Instagram

建設機械の事なら

コマツ茨城株式会社 （販売・サービス代理店）

本　　社	〒310-0845	水戸市吉沢町３５８－１	TEL.029-304-3810
水戸支店	〒310-0845	水戸市吉沢町３５８－１	TEL.029-304-3820
鹿島支店	〒314-0015	鹿嶋市泉川１００５－１	TEL.0299-82-2711
つくば支店	〒300-2353	つくばみらい市小張4121-2	TEL.0297-47-6330
下館支店	〒308-0802	筑西市横島１２３－３	TEL.0296-22-6771

株式会社イバジュウ （コマツ茨城グループレンタル会社）

日立営業所	〒317-0052	日立市東滑川町４－８－５	TEL.0294-42-0848
水戸営業所	〒310-0845	水戸市吉沢町３５８－１	TEL.029-304-3880
みらい平営業所	〒300-2353	つくばみらい市小張4121-2	TEL.0297-47-2311
新利根営業所	〒300-1415	稲敷市中山４３７７－３	TEL.0297-87-5771
三和営業所	〒306-0107	古河市東間中橋１３－４	TEL.0280-76-8134

空気調和・衛生設備・設計施工

＜最適環境を提供する＞

SEIWA TECHNOS

セイワテクノス株式会社

（2026年４月に社名が変わりました「旧清和工業株式会社」）

代表取締役　佐藤　正美

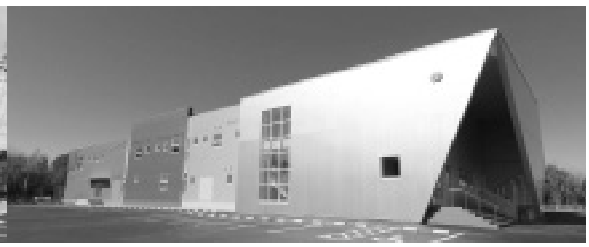
■ 本　　社　〒310-0846 水戸市東野町140-4
TEL　029-248-2413　FAX　029-2478-2426











SHIBA
ARCHITECT
OFFICE

since 1967

株式会社 柴建築設計事務所

水戸市泉町 3-1-28 第二中央ビル 7 階
TEL 029（227）0222
FAX 029（231）0960

http://www.shiba-arc.co.jp/



一般社団法人
茨城県建築士会
https://i-shikai.com

携帯サイト　Instagram